

バンドネオンの若手の旗手として目覚ましい活躍を繰り広げる三浦一馬が、今年デビュー15周年を迎える。自ら結成した「東京グランド・ソロイスツ」を率い、生誕100年のメモリアルイヤーを迎えるオール・ピアノ・プログラムに挑む！

**音楽に囲まれた幼少期
バンドネオンとの出逢い**

両親がピアニストで、いつも音楽に溢れた家庭でした。ピアノの下に潜って両親が弾くピアノの音を聞いたり、おもちゃ感覚でピアノに触っていたのがよかったのだと思います。6〜8歳の頃、家族でイタリアに移住したりと音楽的にもいろいろな刺激を受けました。10歳のとき、NHKテレビで偶然バンドネオンの番組を見て一目惚れ。体に電流が流れるような衝撃を受けました。後に師となる小松亮太さんのミニライブで「バンドネオンが弾きたい！」と直談判したところ、数日後に小松さんがご自身の楽器を自宅に送ってくださったのです。プチプチの梱包を開封し、バンドネオンを持ち、何も考えずにボタンを触った瞬間、最も低い「ド」の音が鳴り、その振動、重さで初めて実際の楽器を感じました。ゾクゾクした記憶が、いまでも鮮明に思い出されます。

**16歳で決意のプロ・ピアニスト
恩師マルコーニと出逢い**

楽器に出逢って以来、いろいろなコンサート

三浦一馬

Special Interview [バンドネオン]
Kazuma Miura, Bandoneon

に出演させてもらいましたが、曖昧だった自分のポジションを打開したくて、16歳で「プロ・デビュー」と銘打って公演を開催しました。と言っても、チラシなどもすべてが手作り。いま思うと恥ずかしいですが、当時はすべてを出し切った公演でした。ピアノ・スタイルのコンフロント・ヌエベ（9重奏）やアコンカグア（協奏曲）など、ずいぶん贅沢なことをさせていただきました。高校1年生の春休みに、憧れの巨匠マルコーニさんが来日すると知って別府に行きました。行き当たりばったりで、打ち上げ中のところに飛び込み演奏を聴いていただいたところ、翌日以降の空き時間もホテルでレッスンをしてくださいました。以来、マルコーニさんとのご縁は続いており、デビュー10周年公演にはマルコーニさんを日本に招いてのツアーも敢行しました！

**悔しいコンクール準優勝
アルゲリッチとの共演**

2008年に国際ピアノ・コンクールで



までに引き込まれ、のめり込んでしまう音楽はほかにあるだろうか毎回感じます。後世の我々が聴いて丁寧に分析しても、この曲はこうでしかありえない、完璧だ、と思わされる部分が多い。構成、メロディの魅力など、楽曲分析をしても緻密に、かつ確固たるピアノの色を伴って作曲されていることに畏怖の念を感じます。

**2017年に結成！
東京グランド・ソロイスツの魅力**

時代に即したピアノ・サウンドを表現できないか、と漠然と思っていました。本家本元ピアノの演奏も素晴らしいし、クラシック界でのブームを経たのでクラシック奏者による演奏も素晴らしい。その両方の良さを自分というフィルターを通じて表現したいと考えていました。2017年に旗揚げした東京グランド・ソロイスツの魅力は、ピアノのサウンドに新しい息吹を吹き込む、最も新しいスタイルであること。僕のいろいろな演奏形態のフラッグシップと言えます。これまでの

様々な共演者、様々なレパートリーも含め、現在における集大成です。とにかく、気持ちよくメンバーに弾いてもらうことを意識しています。編曲する際は「当て書き」のように、誰がどのように弾くかも考えながら楽譜に向かっています！

所沢ミューズ公演に向けて

所沢では、いつも温かい印象とエネルギーを客席からいただいています。特に印象的だったのは所沢市役所の公演で、ロビーから溢れんばかりのお客様がいまでも記憶に残っています。実はまだアークホールでは演奏したことがないので、その点も楽しみなことの一つです。ピアノ・イヤーという特別な年に一番自信を持ってお届けできる東京グランド・ソロイスツの公演が実現したことが何より嬉しいですし、プログラムも名曲揃い！どこを切り取ってもお楽しみいただける自信があります。東京グランド・ソロイスツの所沢ミューズ初公演、ぜひお楽しみにお待ちください！

**ピアノ生誕100年記念
三浦一馬 [バンドネオン]
東京グランド・ソロイスツ** 好評発売中

2021年3月21日(日)
14:15開場 15:00開演 アークホール

料金◆S席:¥4,500 A席:¥4,000
曲目◆《オール・ピアノ・プログラム》
悪魔のロマンス / プエノスアイレスの冬
アディオス・ノニーノ ほか

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により公演中止の可能性がございます。最新情報は所沢ミューズの公式ホームページでご確認ください。




長年愛用している、師匠マルコーニから譲り受けたバンドネオン。1938年製「Alfred Arnold」



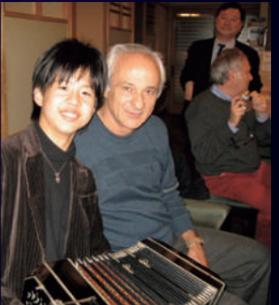
2017年結成「東京グランド・ソロイスツ」のリハーサル風景。ピアノ・サウンドに新しい息吹を吹き込む、最も新しいスタイルを追求



2011年「アルゲリッチ音楽祭」にて巨匠アルゲリッチと共演。来日がキャンセルとなってしまったマルコーニの分まで一生懸命弾きました



2008年「国際ピアノ・コンクール」準優勝。優勝するつもりだったので、ただただ悔しい気持ちでいっぱい



高校1年生、マルコーニに会いに別府へ。打ち上げ中の寿司屋さんで初めて出逢い、記念撮影



6歳から家族でイタリア移住した幼少期。音楽的にたくさんの刺激を受けました